

## 県内水田の施肥管理と土壌養分の変化～35年間の調査結果から～

### 【1 研究の背景】

農業研究センターでは、昭和54年度から5年おきに、県内各地の同一の水田について、有機物施用や施肥の実態把握、土壌分析などを行っています。健全な土壌環境の維持に向け、これまでの35年間における水田の施肥管理や土壌養分の変化を明らかにしました。

### 【2 成果の概要】

- (1) たい肥施用農家は3割に減少、稲わら施用農家は8割に増加、たい肥施用量は減少傾向
- (2) 施肥量は3～7割減少、ケイ酸の施用農家割合は3割に減少
- (3) 土壌のリン酸含量は適正水準に収まりつつあるが、3割のほ場では無施肥可能
- (4) 土壌のカリ含量は低下傾向、改良が必要なカリ不足のほ場が半数以上に急増

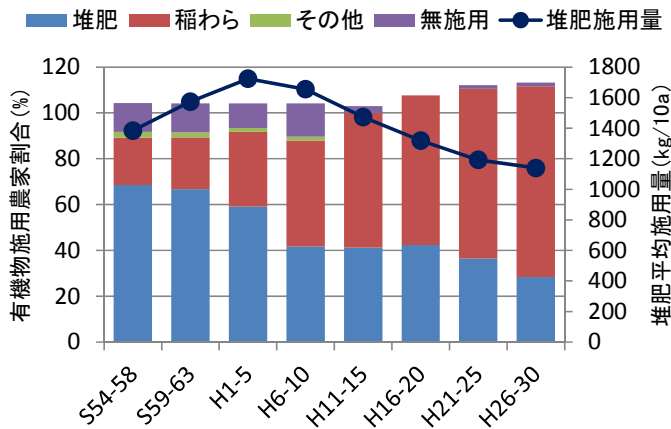


図1 有機物施用農家割合とたい肥施用量の推移

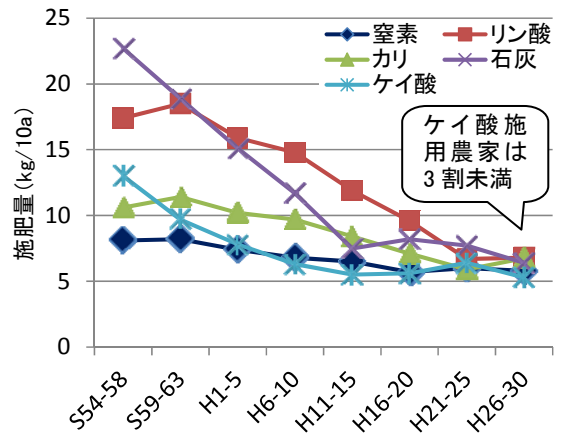


図2 施肥量の推移

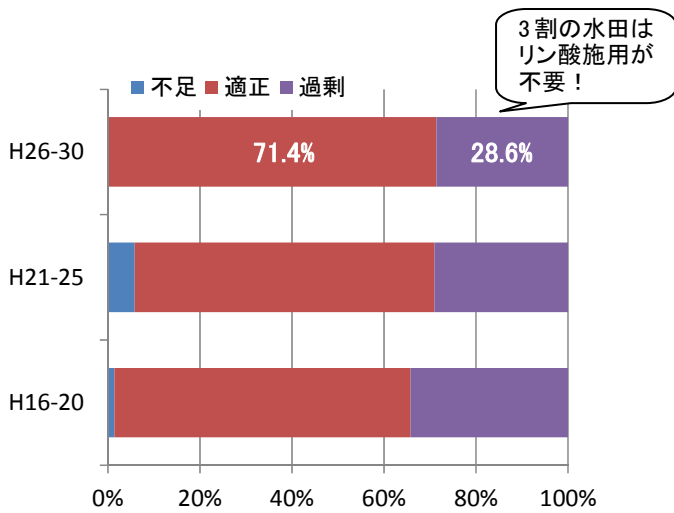


図3 土壌中のリン酸含量区分別ほ場割合

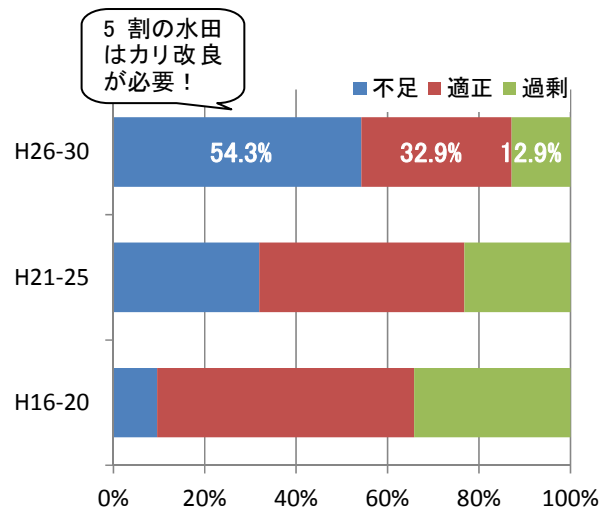


図4 土壌中のカリ含量区分別ほ場割合

### 【3 留意事項】

本成果は県内全体の傾向を示すものです。各地域の土壌養分を評価する場合は、地域で実施している土壌診断のデータも考慮してください。